

令和7年度 年度計画(案)の概要

地方独立行政法人 長野県立病院機構

I 業務運営目標

第4期中期計画の初年度である令和7年度は、悪化した経営状況の立て直しに引き続き取り組み、第4期中期計画期間中の早期の資金収支黒字化を達成するべく、外部コンサルタント等も活用しながら、更なる経営改善の取り組みを進める。

また、医師の働き方改革への対応など喫緊の課題に適切に対応しつつ、医療ニーズを的確に把握し、県立病院の持つ医療資源を活用して、県民へ安全・安心で良質な医療を安定的に提供する。

II 年度計画

条項	年度計画案
第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
1 県立病院が担うべき医療等の提供	<p>信州医療センターは、感染症に関する高度な専門医療を提供するとともに、地域の基幹病院として、今後増加が見込まれる高齢者疾患に対応した地域医療等を提供する。</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内の感染症指定医療機関及び保健所等と連携して感染症医療をリードするとともに、協定指定医療機関への支援、広域での収容訓練、感染対策情報の随時発信を実施 一類感染症等に適切に対応するため、受け入れ訓練を実施 海外渡航者外来での海外赴任者等に対するワクチンの予防接種及び輸入感染症への対応 新型コロナウイルス感染者のうち、高齢者、基礎疾患を有する中等症患者を常時受け入れられるよう体制を維持 訪問看護ステーションによる在宅医療体制の確保・充実 <p>拡 市町村と連携し、対策型胃内視鏡検診・大腸内視鏡検診を実施</p> <p>拡 健診部門における大腸内視鏡検査の積極的な広報と受け入れ</p> <p>新 女性用の入院病棟であることを明確にするため、令和7年4月（予定）から3階病棟を「産科・小児科・レディース病棟」に設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 「須坂モデル」を基盤に地域との多職種連携を継続し、デイサービス型、宿泊型、訪問型による産後ケア事業を継続 専門に特化した「人工関節・下肢関節機能再建センター」により、高度で複雑化した整形外科関節疾患の治療を安全かつ正確に実施 <p>新 適正な病床数を検証の上、許可病床数を削減</p>
(2) こころの医療センター駒ヶ根	<p>こころの医療センター駒ヶ根は、質の高い精神科専門医療を提供するとともに、県の政策医療を担う病院として、次に掲げる医療を提供する。</p> <p>【主な取組】</p> <p>拡 「子どものこころ総合医療センター」の建設に向けて、省エネルギー基準の適合義務化への対応や建設推進体制の検討</p> <p>拡 児童・思春期の患者に対し切れ目のない支援を行うため、児童・思春期の入院・外来の看護体制一元化</p> <p>拡 児童・思春期、青年期精神科医療の治療標準化に向けたクリニカルパスの整備</p> <p>拡 摂食障害の入院治療標準化に向け多職種チームで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 依存症治療拠点機関として、情報発信や地域の支援者へ啓発活動の継続的な実施 県内の依存症専門医療機関と連携し「第9回関東甲信越アルコール関連問題学会 長野大会」を運営 m-ECT（修正型電気痙攣療法）の安全な運営に向け、人材育成や運用体制を再検討 <p>拡 アルツハイマー病の抗アミロイドβ抗体薬治療への対応、治療適応外患者への支援を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症診断後の患者や家族に対し、地域の関係機関と連携した相談支援を実施 DPAT隊員の養成・技術向上及び県防災訓練への参加、装備・資機材の再整備 精神科専門医、子どものこころ専門医、精神保健指定医の育成 <p>新 医療情報システムの更新においてセキュリティ強化を重点的に実施し円滑に移行</p>
(3) 阿南病院	<p>阿南病院は、下伊那南部地域に密着した医療を担う病院として、次に掲げる医療を提供する。</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療機器の共同利用による下伊那南部地区の診療所との連携 <p>拡 急性期医療施設との連携を行い後方支援病院としての役割を明確化</p>

条項	年度計画案
(4) 木曽病院	<p>木曽病院は、木曽地域唯一の入院機能を持つ医療機関として、へき地における急性期機能の維持と回復期・慢性期機能の充実を図るとともに、地域の医療ニーズに適応した外来・在宅医療等、次に掲げる医療を提供する。</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症疾患医療センター担当看護師による地域巡回を実施し、地域と連携した認知症対策を推進 ・ MRIを用いた子宮がん検診を開始し、地域住民の健康保持増進に寄与 ・ 無医地区の医療環境確保のため、巡回診療を継続。このうち隔月でオンライン診療を実施 ・ 介護施設へのオンライン診療を継続して実施 <p>拡 訪問診療におけるオンライン診療の拡充を検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域がん診療病院として緩和ケア研修会を継続 ・ がん相談やがんサロンについて、令和6年度に構築したオンライン環境での参加を推進 ・ AYA世代のがん患者に対するアビアランスケアの推進 ・ 災害時におけるDMATによる派遣体制の確保 ・ 郡内の小中学生に向けたBLS研修を継続し、木曽地域全体の一次救命処置能力の底上げを実施 <p>新 モバイルカーを活用したモバイルクリニックの導入検討を開始</p>
(5) こども病院	<p>こども病院は、県における高度小児医療を担う病院として、次に掲げる医療を提供する。</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集中治療病棟（PICU）、ドクターカー出動による24時間365日体制での小児重症患者の受入体制の継続（三次救急医療） ・ 高度な新生児医療、ハイリスク妊産婦に対する周産期救急医療の充実 <p>拡 ファミリーセンタードケア（患者、家族、医療スタッフ全員で築く医療）推進</p> <p>拡 成人移行期医療において成人医療機関等との連携を強化し支援を充実</p> <p>拡 医療的ケア児の評価入院、在宅移行及び在宅医療維持の支援を充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小児がん拠点病院及び成人診療科を含めた県内医療機関との連携強化 ・ 小児がん患者に対する就学・就労支援等を含めた長期フォローアップ体制の充実 ・ 長野県拡大大新生児スクリーニング検査事業等の推進により新生児期の疾病の早期発見・早期治療の機能を充実 ・ こころとからだの診療体制と患者・家族への支援の充実
2 地域連携の推進 (1) 地域医療構想への対応 (2) 地域包括ケアシステムの推進 (3) 地域の保健・福祉関係機関等との連携の推進	<p>各病院は、地域の実情に応じた医療・介護ニーズに適切に対応するため、在宅医療に積極的に取り組むとともに、関係機関等と連携し、各地域の地域包括ケアシステムにおける役割を果たす。</p> <p>【主な取組】</p> <p>新 須坂市と連携し、小児科午後外来の拡充を継続（令和6年10月から試行的に開始）（信州）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 退院後、安心し継続した療養生活が送れるよう、地域の医療機関・福祉施設、訪問看護ステーション、市町村等との連携を強化（同上） <p>拡 多職種チームで適切な治療と評価、「包括的支援マネジメント」の質の向上（駒ヶ根）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入院時から地域連携室、病棟、訪問看護ステーション「こまほす」が連携し退院支援を強化（同上） ・ 外部環境の変化に対応するため訪問看護ステーション「こまほす」運用体制の再検討（同上） <p>新 高齢化が進む下伊那南部地域の中核病院として、人生の最終段階における意思決定支援への取組を周辺町村と連携して進める（阿南）</p> <p>新 今後、必要とされる病院の役割と機能について、自治体や地域住民と共に協議する場を設けることを検討（木曽）</p> <p>新 介護老人保健施設における通所リハ及び短期入所の送迎の継続及び介護予防システム（カラオケ）の導入による利用者サービスの充実（同上）</p> <p>拡 通所リハ利用者数の拡大（同上）</p> <p>拡 介護老人保健施設において計画的に見守りシステムを導入し、利用者の安全確保及び業務効率化を図る（同上）</p> <p>新 三次医療圏を超えた患者ニーズに対応するため、小児補助人工心臓治療の実施体制整備と装置導入を検討（こども）</p> <p>新 地域の要請に応じた県内の小児の二次救急医療への対応（同上）</p>

条項	年度計画案
<p>3 医療従事者の確保・養成と専門性の向上</p> <p>(1) 県内医療に貢献する医師の確保・養成</p> <p>(2) 機構職員の確保・養成</p> <p>(3) 県内医療技術者の技術水準の向上への貢献</p> <p>(4) 信州木曽看護専門学校の運営</p>	<p>各病院は、その特色を活かした臨床研修プログラム等により初期臨床研修医等の受入れと育成を行うとともに、研修の充実を図ることにより機構職員の知識、技術、資質の向上を図る。本部研修センターは、外部医療機関等と連携し、シミュレーション教育を活かした研修会等を実施し、県内医療従事者の技術水準の向上に取り組む。</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 信州大学医学部との寄附講座の事業継続（信州） ・ 新専門医制度に対応したプログラムにより総合診療医の養成と定着を支援（同上） ・ 精神科専門医、子どものこころ専門医、精神保健指定医の育成（再掲）（駒ヶ根） ・ 地域がん診療病院として緩和ケア研修会を継続（再掲）（木曽） ・ 県内外の初期研修基幹病院と連携し、初期研修医の積極的な受入を実施（こども） ・ 専攻医採用に向けた取組と専攻医教育の充実を継続（同上） ・ 地域における薬剤師業務の質の向上と、地域保険薬局との連携強化を目的とした「薬業連携に関する研修会」の開催（信州） <p>新 高校生に興味をもって見てもらえるようホームページを改修するほか、Instagramの効果的な活用を実施（木曽看）</p> <p>新 新たに社会人入試を実施（同上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小・中学校での職業講座を実施し、看護師の仕事への興味を喚起（同上） ・ 学生の出身高校訪問等により、本校の魅力を高校生にPR（同上） <p>拡 改訂したパンフレットや広域連合のデジタル回覧板システムを活用し、本校行事等の効果的な広報を実施（同上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長野県医療従事者シミュレーション教育指導者研究会等の充実（研修セ）
<p>4 医療の質の向上に関すること</p> <p>(1) より安全で信頼できる医療の提供</p> <p>(2) 医療等サービスの一層の向上</p>	<p>各病院は、機構本部及び他の県立病院と連携して医療安全対策を推進し、各病院の医療安全の標準化と質の向上に努める。また、院内感染防止のため、他の県立病院等と情報の共有化を図りながら、発生予防と拡大防止対策を推進する。</p> <p>各病院は、患者満足度調査等による患者・家族のニーズの把握や、接遇の改善、臨床評価指標（クリニカルインディケーター）の提供、クリニカルパス適用率の向上の取組等により、病棟・病室の環境整備を含めた患者サービスの向上に努める。</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全相互点検の実施及び医療安全管理研修会の開催（本部） <p>新 電子カルテシステム更新に合わせ、全館WiFi環境を整備（信州）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部門横断的な改善活動や人材育成を推進するため、院長が委嘱した内部監査員によるチーム監査を実施し、医療の質を維持・継続（駒ヶ根） <p>拡 患者サポートセンターの移転改築に合わせて、患者の入院から退院まで院内外での多職種連携支援の推進（木曽）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和6年度に発足したQM推進委員会が主体となり、病院機能評価に準じた院内ラウンドと自己評価を実施し、継続した改善活動を実施（同上） <p>新 医療の質及び病院機能向上のため、病院機能評価受審を行い質改善活動を継続（こども）</p> <p>新 多様化する患者家族ニーズに応じた療養環境の改善（家族付き添い環境の整備、個室率向上の検討）（同上）</p>
<p>(3) 医療DX</p> <p>(4) 信州大学等との連携</p> <p>(5) 医療に関する研究及び調査の推進</p>	<p>各病院は、オンライン診療の実施等、国が進める医療DXに対応し、医療分野におけるデジタル技術を活用することで、医師をはじめとする医療従事者の負担軽減及び業務の効率化を推進するとともに、地域の診療機能を充実する。また、臨床研究を推進し、医療技術・医療水準の向上に努める。</p> <p>【主な取組】</p> <p>新 医療の質の向上、より安全で適切な治療の提供のため電子処方箋システムを導入し、運用を検討（駒ヶ根）</p> <p>新 電子カルテ情報共有サービスの導入により他医療機関との連携強化を推進（木曽）</p> <p>新 長期署名システムの導入によるデータの長期的な信頼性の確保とペーパーレスによる業務効率化の実現（同上）</p> <p>新 オンライン看取り導入に向けた検討の開始（同上）</p>

条項	年度計画案
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 業務運営体制の強化	<p>機構本部は、目標の達成に向け、業務を健全かつ効率的に運営するための内部統制システムの構築と本部機能の強化に取り組むため取組を実施する。</p> <p>【主な取組】</p> <p>新 設備マスタープラン（個々の医療器械の更新予定及び全体の投資額の管理）の作成（各病院・本部）</p> <p>新 病床稼働率・患者数等の週次報告を実施し、課題を早期に把握（同上）</p> <p>新 機構未来プロジェクトコア会議を定期的に開催し、進捗状況の確認や改善策の検討を実施（本部）</p> <p>新 投資の2段階審査プロセス（予算段階・執行段階）を新たに導入し運用を開始（同上）</p> <p>新 機構本部による職員数（病院採用を含む）の管理を実施（同上）</p> <p>新 時間外勤務手当削減の達成状況を機構本部が管理し、月次会議で確認（同上）</p> <p>新 機構本部と各病院を兼務する職員を配置（同上）</p> <p>拡 病棟再々編後のベッドコントロールにより収益性の向上を図る（木曽）</p> <p>拡 年度計画と人事評価制度を絡めたアメーバ経営の推進による業務・経営改善の実現（同上）</p>
2 経営人材の育成・確保 3 業務改善に継続して取り組むための仕組みづくり	<p>機構本部は、各病院と連携して、経営人材の育成・確保のため取組を実施する。また、D P Cデータや経営状況等を共有するシステム等を導入し、機構本部と各病院の連携、経営管理を強化・促進する。</p> <p>各病院は、病院運営に一体的に取り組むため、職員意識の向上を図る。</p> <p>【主な取組】</p> <p>新 事務職について、業務の専門性を見据えた人事・研修体制の検討（本部）</p> <p>・看護師、薬剤師を中心とした病院間の交流研修を推進（同上）</p> <p>新 デジタル技術最適化のための内部事務系ネットワーク等の更新（本部）</p> <p>・アメーバ経営の時間当り採算表により職員へ月次で各部門の経営状況を共有し、収支に対する意識を高め、経営への参加意識を醸成（木曽）</p> <p>拡 アメーバ経営の部署横断的なディスカッション研修を開催し、更なる部門間連携を推進（同上）</p> <p>・経営改善ニュースの掲載内容の刷新及び発行方法の検討（同上）</p> <p>・診療実績、経営指標の分析業務の効率化と院内周知の仕組みを構築（こども）</p> <p>・医療機関生産性向上及び職場環境整備を推進するための機器充実により業務効率化と経費縮減を推進（同上）</p>
4 働き方改革への対応 5 職員の勤務環境の向上	<p>各病院は、医師の健康確保と地域医療の確保の観点から、オンライン診療等 I C T技術の活用や、他職種へのタスク・シフティング等、職員の働き方を工夫する。</p> <p>病院機構は、ハラスメントの防止に取り組むとともに、ワークライフバランスに配慮した働きやすい職場環境づくりを推進し、職場環境満足度の向上に努める。</p> <p>【主な取組】</p> <p>・現状の宿日直許可について、業務実態に応じた申請が必要なため、令和6年11月に再申請を実施し、令和7年度中の許可を予定（信州）</p> <p>新 入院オリエンテーション動画を導入し、患者サービスと業務効率化を推進（同上）</p> <p>拡 救急外来看護師による外傷に対する放射線検査プロトコール、胸痛のある患者に対するプロトコールの実施を進め、医師の負担軽減を推進（同上）</p> <p>・医師労働時間短縮計画の推進及び労務管理体制の整備（こども）</p> <p>・医療技術部職員の厚生労働大臣指定講習会の受講を促進し医師から他職種へのタスクシフトを推進（同上）</p> <p>新 組織としてカスタマーハラスメントに対応するため、「カスタマーハラスメント対応基本方針」に基づき体制整備について検討（信州）</p> <p>・「働き方改革宣言」及び「ハラスメント撲滅宣言」の見直しによる働きやすい職場環境づくりを推進（駒ヶ根）</p> <p>新 カスタマーハラスメント（ペイシェントハラスメント）への対応体制の検討（同上）</p> <p>新 新職員宿舍建築に向け、関係機関への働き掛けを実施（木曽）</p> <p>・本部事務局と連携した「職員の相談窓口」を継続し、職員の心のケアの機会を確保（こども）</p> <p>新 職場環境満足度調査の調査方法の見直し（本部）</p> <p>新 育児・介護休業法改正の趣旨に沿った規定改正を実施し、育児・介護及び仕事との両立に向けた支援体制を強化（同上）</p>

条項	年度計画案
第3 予算、収支計画及び資金計画 1 経常黒字の確保 ※予算、収支計画、資金計画(略) 2 経営基盤の強化(収益の確保、費用の抑制) ※患者数目標等(略)	<p>様々な診療報酬の算定可能性の検討たDPC係数等、収益の確保に取組む。 診療材料・医薬品等の適切な管理によるコスト削減等、費用の抑制に取組む。</p> <p>【主な取組】</p> <p>新 健診部門の事務職員を内製化することで企画部門の体制を強化し、効率的な運用及び積極的な受け入れによる受診者の増（信州）</p> <p>新 介護福祉施設との情報共有等による協力医療機関連携体制を構築し、協力対象施設入所者連携加算を算定（同上）</p> <p>拡 地域医療連携交流会開催等による紹介率の向上（同上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護部主導のベッドコントロールによる病床管理の徹底（駒ヶ根） ・総合治療病棟（B2病棟）の最適な入院料算定に向けた検討（同上） ・精神科急性期医師配置加算Ⅰを維持するためクロザピン新規導入年間6件を確保（同上） <p>新 夜間看護補助者の配置により夜間看護補助体制加算を取得（木曽）</p> <p>新 急性期一般入院料1（7対1）の取得に向けた検討を開始（同上）</p> <p>拡 重症患者・救急患者の受入機能の強化等により診療単価及び収益を向上（こども）</p> <p>拡 ベッドコントロール強化と空床活用の取組を推進（空き手術枠の利用促進、土曜日アレルギー入院等）（同上）</p> <p>新 診療放射線一括保守の推進（各病院・本部）</p> <p>新 機構未来プロジェクトに係る各種委託費の見直しの推進（同上）</p> <p>新 委託業務の仕様見直しや複数業者による参入促進による費用削減（信州）</p> <p>新 診療材料の期限管理の運用を開始し、使用期限切れによる廃棄を最小限に抑え、コスト削減（木曽）</p> <p>新 修繕や工事の内製化によりコスト削減（同上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・超過勤務時間の縮減取組を強化（定期開催の委員会やカンファレンス等の所定労働時間内での実施、会議等の効率的な運営等）（こども） ・委託業務の仕様見直し、保守点検の一部内製化等による費用縮減（同上）
第7 その他業務運営に関する事項 1 コンプライアンスの推進と適切な情報管理	<p>機構本部は、法人内のコンプライアンスの強化を図るとともに、内部統制委員会及びリスク管理委員会の活動を通じて内部統制等の評価・検証を行い適切な業務運営を行う。また、個人情報の保護に関する法律や長野県情報公開条例等に基づき、保有する個人情報の適切な管理とセキュリティ対策を講じるとともに、定期的な研修会により、職員への周知を徹底する。</p> <p>各病院は、医療の提供に支障を及ぼすおそれがないよう、サイバーセキュリティ確保のための必要な措置を講じる。</p> <p>【主な取組】</p> <p>新 電子カルテシステムの更新に合わせて、セキュリティ対策（EDR）の導入、バックアップの不変対応を実施（信州）</p> <p>新 医療情報システムの更新においてセキュリティ強化を重点的に実施し円滑に移行（再掲）（駒ヶ根）</p> <p>拡 医療情報システムの安全管理に関するガイドライン（第6.0版）に準じた環境整備を推進（木曽）</p> <p>新 令和6年度に策定した事業継続計画（BCP）に基づく実践的な訓練を実施（同上）</p>
2 施設及び医療機器の整備に関する事項	<p>地域の医療ニーズ、費用対効果、将来の収支見通し、投資・財政計画等を踏まえ投資を最適化し、施設と医療機器の効果的な整備を行う。また、相当の年数が経過した木曽病院及びこども病院については、今後の地域医療や全県的な小児・周産期医療提供体制を踏まえた施設のあり方について県と協働して検討を進める。</p> <p>【主な取組】</p> <p>新 設備マスタープラン（個々の医療器械の更新予定及び全体の投資額の管理）の作成（各病院・本部）</p> <p>新 エアコン設備の経年劣化、故障への対応を図るオーバーホールの実施（駒ヶ根）</p> <p>新 保守サポートが終了した放射線機器を更新（同上）</p> <p>拡 全県的な小児・周産期医療提供体制を踏まえて将来的に備えるべき機能と施設のあり方の検討を継続（こども）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来的な建替を見据えた情報収集の継続（地域医療機関及び患者家族ニーズの把握、他病院の視察等）（同上）

新しい取組は「新」、拡充は「拡」を表示